１８	豊田	伊保小学校	コ　ヤマ　シズカ 氏名　小　山　静

分科会番号	7	分科会名	美術教育

研究題目　　**試行錯誤や他者との関わりを通して、**
自信をもって表現を楽しむ子どもの育成
―　６年　音を感じて「伊保小音マップ」をつくる実践を通して　―

１　主題設定の理由

本学級は、アンケートをとった際に６割の児童が絵を描くことが好きだと答えた。好きな理由として、「楽しくできるから」「友達の表現を見るのが好きだから」「表現を作るときに友達や先生からアドバイスをもらい、自分の想像を広げられるから」と答えており、友達と関わりながら表現することに意欲があると分かる。「墨と水から広がる世界」の題材では、表現を鑑賞したときに、友達からの「すてきポイント」を読んで「楽しく活動できた」と感想をもつ児童が多かった。しかし、楽しい気持ちにはなったが、自分が描いた絵に対して「うまく描けなかった」と感想をもち、自信がないと感じている児童が３割程度いた。自分の表現と他者の表現を比べ、自分はうまく描けないと感じていることがうかがえた。そこで、他者との比較によって優劣をつけるのではなく、自分が感じたイメージを、どのように表現したら相手に伝わるのかという点に価値をもたせたいと考えた。

本題材では、目には見えない音を感じながら、形や色を思い浮かべて絵に表す活動をする。音は目に見えるものではなく、同じ音を聞いても人によって形や色のイメージが違うため、本物のように描くことが上手いと考え、他者の表現と比べている子どもが、他者との比較ではなく、自分なりの表現を生き生きと追究することができる題材であると考えた。聞こえた音がどんな形や色かを自分なりに想像した上で、絵の具や色画用紙など自分の思いに合うものを選んで試行錯誤を繰り返しながら表現をしていく。繰り返し表現を模索することで、児童は音を身近に感じ、自分のイメージに合わせて納得いくまで表し方を工夫することができる。また、音からイメージしたことを伝え合う時間、形や色を試行錯誤する時間を設定した。さらに、お互いの表現のよい点をほめる「すてきポイント」を伝えたり、「パワーアップポイント」としてアドバイスを伝え合ったりする時間も設定した。これらの活動によって、自分の表現に自信をもち、それぞれの子どもが表現を楽しむことができると考えた。以上のことから研究主題を「試行錯誤や他者との関わりを通して、自信をもって表現を楽しむ子どもの育成」とし、音を通して「伊保小音マップ」をつくる実践を通して研究を進めた。

２　めざす子ども像

試行錯誤や他者との関わりを通して、自分の表現に自信をもち、表現することを楽しむ子ども

○本題材における「表現することを楽しむ姿」の定義
- いろいろな技を何度も試す姿
- 複数の技を組み合わせる姿
- 他者の表現を見て自分の表現に生かす姿
- 他者にほめられた表現をもっとよくしようとする姿

3　仮説と手立て

【仮説】自分の思いに合う基底材や画材、技法を選び、繰り返し表現したり、他者と関わり合って製作をしたりすれば、自分の表現に自信をもち、表現することを楽しむことができるだろう。

〈手立て①〉画材コーナーの設置、「team 技」の掲示

いろいろな形の基底材や色画用紙、色セロハンを用意し、表現の可能性を広げられるようにし、自己決定の場を作る。小さな基底材を用意し、子どもがイメージしたことをすぐ表現に結び付けるのではなく、まずは試すことができるようにする。そして、既習の技法を確認するための「team 技」を掲示し、表現したいことに合わせて技法を選ぶことができるように、道具を用意する。できるだけたくさん試していく中で、自分のイメージに合った表現を見付けられるようにする。技法によって様々な表現になることに気付き、自分の思い描く音を表現することができる。

〈手立て②〉振り返りの活用

前時の活動の振り返りから、次はどのように表現するのかを考えられるように振り返りシートを活用する。「めあて」、「達成度」、「工夫したこと」、「次にやりたいこと」を書いて蓄積することで、見通しをもち、自信をもって製作に臨むことができる。

〈手立て③〉表現について伝え合う場の設定

表現する途中の段階で、自分の表現について振り返り、どんな音からどのようなイメージをして製作をしたのかを友達に伝える。自分の表現に対して友達から「すてきポイント」や「パワーアップポイント」をもらったり、友達の表現や表現の説明に対して、「すてきポイント」や「パワーアップポイント」を伝えたりする場を設ける。また、「伊保小音マップ」として、児童の表現を場所ごとにまとめ、伊保小学校地図に重ねて掲示する。「伊保小音マップ」に描かれた音を実際に聞いて表現を見た保護者や同学年の仲間からの感想を読むことで、自分の表現が認められた実感と、達成感をもつことができる。

4　抽出児童について

	現状	教師の支援・願い
児童 A	自分と他者の表現を比べて、自分は上手く描くことができないから表現に対して自信がないと感じている。そのため、途中であきらめてしまうことがある。	目には見えない音を感じ、形や色を思い浮かべて絵に表す本題材で、たくさん試したり友達と関わり合ったりする活動を通して、自分の表現に自信をもち、表現することを楽しませたい。

5　実践と考察

（１）画材コーナーや「team 技」の掲示〈手立て①〉

資料１　team 技

画材コーナーには、いろいろな形の基底材や色画用紙、色セロハンを準備した。また、既習の技法を確認するために、「team 技」（資料１）を掲示した。金網と歯ブラシ（スパッタリング）、ストロー（フーフーストロー）、ビー玉（ビー玉コロコロ）、割り箸（スクラッチ）など様々な技法の道具を準備した。選んだ音に合わせて自分で選択し、音を表現する可能性を広げられるようにした。また、基底材を一人一枚と決めず、自分なりの表現を見つけるまで何度も試すことができるようにした。

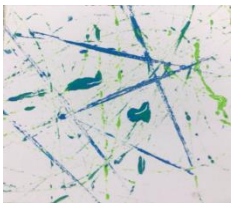
資料２　ビー玉コロコロ、スパッタリングをする児童 A

児童 A は、枯葉を踏んだ時の音を表現するために、ビー玉コロコロやスパッタリングを選んだり、絵の具に水を含ませて画用紙に落としたりするなど、いろいろな技法を試していた（資料２）。毎回「team 技」に掲示してある道具を準備しておくことで、スパッタリングやビ

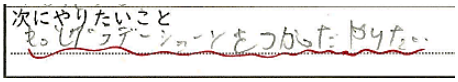
ー玉コロコロを試した次の時間にもう一度スパッタリングを使うなど、試行錯誤をする姿が見られた。他の児童がスパッタリングを選んで使っている表現を参考にして、自分の表したい音にも使えると考え、製作の時間には一貫してスパッタリングを必ず使っていた。試行錯誤の結果、自分の表したい音にはスパッタリングがふさわしいと考え、自信をもって製作をする姿が見られた。以上のことから、手立ては有効であったと言える。

（２）振り返りの活用〈手立て②〉

資料３　音「ザクザク」



資料４　「自然の塊」



資料５　第４時の振り返りプリント

児童Ａは、第２～３時で伊保小の音を探したときに、色鉛筆を使って森の中の落ち葉を踏む音を描いた（資料 3）。友達が色鉛筆を使って表現している絵を参考にして自分でも色鉛筆を使い、「落ち葉のクシャクシャ感を出して描けた」と前向きな感想を書いた。第４時では、自分のめあてを「精密につくる」と設定し、細かいところまできれいに作ることに重きを置いていた。前時にグル―プの児童の表現と比べて、もっときれいに見えるように描こうと考えて設定しためあてだと考えられる。しかし、この時間の製作の様子を見ると、様々な技法に目を向け、絵の具に水を含ませて画用紙に落としたり、ビー玉を転がしたり、スパッタリングをしたりしていろいろな技法を試す姿が見られた（資料 2・4）。道具を取りに行く途中で、友達のグラデーションを用いた表現を見て、自分は一色でスパッタリングをしていたことに気付き、次にやりたいこととして「もっとグラデーションを使ってやりたい」という記述（資料 5）をしていた。他者の表現と自分の表現のうまさを比べるのではなく、「自分の音に取り入れたい表現」という視点で他者の表現を見ており、自分の表現をイメージしたことにさらに近付けようとしていた。

第５時では、製作の時間が始まると、画材コーナーの金網と歯ブラシを迷わず選んだ。前時に「もっとグラデーションを使ってやりたい」（資料 5）と振り返りに記入しており、これは、友達の表現を参考にして自分の表現に取り入れたいという前時の振り返りを次時につなげて選んだと考えられる。スパッタリングで青色から黄緑色で表し、前時と同じ色を使っていることから前時の学びをつなげていることが分かる。児童Ａは、ローラースポンジでオレンジ色をパレットに出した後に席を立った。第２～３時に音を集めたときに描いた表現が貼られた掲示（資料 6）を確認してから自分の表現の上部をオレンジ色に塗り重ねた。表現上部を塗った姿から、掲示してあった他の表現からアイデアを探して活用したことがうかがえる。その後、前時で使ったビー玉コロコロやスパッタリングをもう一度試すなど、試行錯誤する姿が見られた（資料 7・8）。

資料６　掲示

資料８　「自然と夕焼け」

時刻	□活動　・児童Ａの行動
13：55	□めあての記入 ・いろんな線や形を使う
14：03	□活動開始 ・準備をするが、なかなか進まず。
14：06	・前に行く。小さい長方形の紙を手に取る。
14：07	・席に戻るが、作業を開始せず。
14：09	・前に行き、歯ブラシと網をとる。 ・スパッタリング　青色→黄緑色
14：16	・ローラースポンジ 黄緑を使おうとしたが、オレンジをパレットに出す。
14：17	・席を立ち、掲示物前に行く。すぐに戻る。
14：17	・絵の具を机にこぼす。
14：20	・上部をローラースポンジでオレンジ色に塗り重ねる。
14：23	・ビー玉を取りに行く。
14：25	・ビー玉を転がして色を塗る。 ・もう一度、スパッタリングに戻す。

資料７　第５時の児童Ａの行動

第６時では、レンガが落ちた音を表現するために「細かくやる」とめあてを設定していた。児童Ａはレンガの音について「ドンという音が聞こえました。散らばる感じだったので、いろいろばらまきました。」と説明をしてい

た。始めに継続して使っているスパッタリングを用いたが、水が多く、ぼたぼたと絵の具が落ちてしまっていた(資料 9)。その後、歯ブラシのみでもスパッタリングのように細かく絵の具を散らすことができることを友達のアドバイスから思い出し、歯ブラシの毛を指でなでて絵の具を散らしていた（資料 10）。

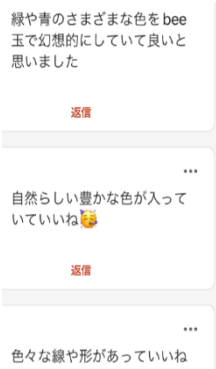
資料 9　絵の具がぼたぼた落ちている

資料 10　歯ブラシを使う

振り返りシートを活用することで、前時に行った活動を本時につなげ、見通しをもって活動することができた。表現したい音に近付くように友達の表現を見て取り入れたり、「team 技」の様々な技法をまだ試していないからやってみようと考えて取り組んだりしていた。こうした姿から、自分の中で次に何をしようか見通しをもつことができたことがうかがえる。さらに、記録を残しておくことで、次時で迷わず道具を手に取り、続けて使うことを楽しむ姿も見られた。以上のことから、振り返りを表現に生かす手立ては有効であったと言える。

（３）表現について伝え合う場の設定〈手立て③〉

表現する途中の段階で、自分の表現について振り返り、どんな音からどのようなイメージをして製作をしたのかを友達に伝える。自分の表現に対して友達から「すてきポイント」や「パワーアップポイント」をもらったり、友達の表現や表現の説明に対して、「すてきポイント」や「パワーアップポイント」を伝えたりする場を設ける。音を表現するときにどんな色やどんな形になっているか着目させるために、活動の前には、色や形を注意深く見てポイントを伝え合うように助言した。また、教室前方に画材コーナーを設置し、材料を取りに行く途中にも他の児童の表現を鑑賞することができるようにした。



資料 11　「すてきポイント」

児童 A は、「色合いがとてもきれいでいいね」「いろんな筆の使い方をしていていいね」「自然のいろんな色を使っていいね」などと他の児童の表現を見て、たくさんの率直な感想を書いていた。また、自分の表現（資料 4）に対する他の児童からの「すてきポイント」（資料 11）を参考にして、第 5 時では青色や黄緑色を継続して使い、ビー玉コロコロで線を描いていた。他者からの感想をもとに、自分の表現を前向きに捉えることができたことがうかがえる。スパッタリングを中心に他の児童が描いていた表現を参考にして、スパッタリングを全面に出した表現に変わった（資料 8）。これは、他の児童からのコメントによって自分の表現のほめられたところに自信をもち、同じ技法を続けて使ったことがうかがえる。児童 A が道具を取りに行く途中で、他の児童の表現を見て質問をしていたり、他の児童が児童 A のところへ来て会話をしたりしていた。その会話の中で、やってみたことやアドバイスを伝え合っていた。さらに、おすすめされた方法を友達と一緒に試す姿があった。他者と関わることで、より自分のイメージに合う表現を見つけたり、自分の表現を肯定的に捉えたりすることができた。

子どもたちが表現し終えたときに、この後どうしたいかを投げかけると、「たくさんの人に見てほしい」という意見が多く挙がった。そこで、学年発表会という行事のときに保護者に見てもらうことにした。児童の表現を場所ごとにまとめて地図に貼り、鑑賞するときにどんな音をもとに絵に表したのか分かるように、二次元コードを添えて、「伊保小音マップ」として展示した（資料 12・13）。保護者からは、「音に対する表現の仕方がとても感性豊かですてきでした」「普段聞き逃してしまうような様々な音に着目して、いろんな色での表現の仕方が楽しかったです」など感想が寄せられた。感想を聞いた児童 A は「イエーイ」と喜びの声を上げて笑っていた。また、6 年生でお互いの表現を見合い、「すてきポイント」を送り合った。児童 A は、他の児童と一緒に同じ音を聞きながらたくさんの表現を鑑賞していた。「いろんな声や音が入っていていいね」と音と絵を結び付けた感想をもった。「伊保小音マップ」を鑑賞した後、「これからはもっといろんな音を聞いてみたい」と意欲をもって振り返りをしていた。

資料 12　表現と二次元コード

資料 13　伊保小音マップ

６　成果と課題

（１）画材コーナーや「team 技」の掲示について

画材コーナーを設置し、「team 技」を掲示することで、児童Ａが表現したい音に合わせて、いろいろな材料や技法を選択し、試行錯誤する姿が見られた。毎時間画材を準備しておくことで何度も試すことができ、児童Ａの、同じ技法に立ち返る姿や同じ技法を続けて使う姿があった。何度も試し、試行錯誤することで、自分のイメージを表現するにふさわしいと納得するまで自分の表現に取り組むことができた。

（２）振り返りの活用について

振り返りを活用することで、前時からの学びのつながりが生まれ、学びを踏まえて試行錯誤する姿があった。児童Ａは、始めはすぐに活動に取りかかれなかったが、振り返りシートを見て、次に取り組みたいことを確認することで、すぐに活動することができていた。また、他の児童の表現と比べて「精密につくる」とめあてを設定し、きれいに作ることに重きを置いて製作するかと思われたが、実際は、他の児童の良さを参考にしながら、自分の表現方法を模索していた。その結果、「もっとグラデーションを使ってやりたい」と考え、ローラーやスパッタリングを用いて製作していた。自分の活動を振り返ることで、次の時間に自分が表現したい音を描くために何をするとよいかを考え、自分の表現と対話しながら製作することができた。

（３）表現について伝え合う場の設定について

製作の途中の段階で表現について伝え合う場を設けたことで、他者からの評価を聞いて自分の表現に自信をもち、製作に生かすことができた。そして、他者の表現を鑑賞することで、新たな気付きを表現に生かす姿が見られた。また、鑑賞の時間以外でも材料などを取りに行く途中で他者の表現や他の児童の製作過程を見たり、アドバイスをもらっていろいろな表現を積極的に自分の表現に生かしたりする姿もあった。製作の様々な場面で他者との関わりをもつことで、自分の表現をもっとよくしようと粘り強く取り組む姿があった。

（４）今後の課題

「自信をもち、表現することを楽しむ子ども」を育成するために、試行錯誤しながら自分で考えて、たくさんの材料や技法を試す手立てを講じた。そして、他者との関わりをもち、他の児童からアドバイスをもらい表現に生かす活動を設定した。場の設定により、児童が動線の中で関わり合うことで、新たな気付きが生まれることを実感した。

グループ隊形で製作を進めたが、それぞれが違う音について取り組んでいたため具体的にアドバイスをすることが難しかった。同じ音同士でグループを作れば、音からのイメージを共有したり技法を検討したりして関わり合うことができたと思われる。具体的なアドバイスを参考にし、同じ音でも人によって表現が様々あるとより実感できたのではないかと考えられる。より深い学びにつながるように、グループの設定の仕方やアドバイスの伝え方をさらに追究していくことが今後の課題である。

<参考資料>

【児童の実態】
○図工が好きな児童が全体の６５％を占めている。
○自分から進んで友達の表現を見てほめたり、まねをしたりする姿が見られる。
●苦手３５％、表現に自信がない児童は全体の３０％おり、特に絵に表す活動に対して苦手意識をもっている児童が多い。
●製作中「何を描けばいいかわからない」「上手く描けない」と止まってしまう児童がいる。
●児童の周りには音があふれている。しかし、音を注意して聴き楽しむ姿はない。

教師の支援

題材への興味や見通しをもたせるために、修学旅行の音から描いた絵を見せる。

１　音のする絵って何だろう？

○　音がしそうな絵を見せてイメージをもたせる。
　・色が混ざり合っているから、泡の音がしそう。
　・黒色が使ってあるから、重い物を落とした音かな。
○　学習計画の流れをつかむ。

児童の学び

参考表現を見て、音を絵にすることに興味をもつ。

学校の中には、どんな音があるのかな。

何度も音を聴くことができるように録音し、録音した音をグループで聞き合い、どんなイメージが浮かんだかを発表ノートに入力させる。

身の回りの音に興味をもつように、イメージした絵を音ごとに貼り、聞こえた音を言葉にしたものや色や形をまとめたものを B 紙に貼る。

２　学校の中の音を見つけよう！

○　学校の中の音を探し、タブレットのボイスメモを使って録音する。
○　どんな色・形のイメージがしたか描いてみる。
　・電車の音は重い感じがしたから黒色で、四角がたくさんつながっている感じがした。
○　音あつめコーナーをつくろう。
　・学校にはたくさん音があるね。
　・同じ場所で同じ音を聞いたけど、聞こえ方が違うね。

身近な音を聞いて感じたことや想像したことから、表したいことを見つける。

形や色などを考えながら、どのように表すかについて考える。

国語科
録音した音をグループで聴き合い、どんなイメージが浮かんだかを色、形に分けて発表ノートに入力する。

学校の中に音ってたくさんあるね。絵にしたいな。

何度も試行錯誤できるよう、試作用の画用紙を用意する。【手立て①】

表現の可能性を広げられように、絵の具以外にクレヨン、色画用紙や色セロハンなどを用意する。【手立て①】

自分の表現に愛着がもてるように、互いにすてきポイントやパワーアップポイントを伝え合わせる。【手立て②】

３・４・５・６　音を絵にしよう！

○　自分が見つけた音の中からお気に入りの音を選んでたくさん絵にしてみる。【手立て②】
　・たくさん四角を描いてどんどん大きくしてみよう。音が近づく感じがする。
　・もっといい描き方はないかな。
○　友達の表現を見合う。お互いの表現を見合い、PowerPoint に入力する。
　・たくさんの四角がだんだん大きくなっていて音が近づく感じがしていいね。背景を水色で塗ると空に響く感じがしていいかも。
○　すてきポイントやパワーアップポイントから次時の個人の目標を立てる。
○　場所ごとに絵を貼る。

身近な音を感じながら形や色を思い浮かべ、表したいことに合わせて表し方を工夫する。

友達と話し合って相談したり、考えや思いを認めたりすることを通して、自信をもって絵に表す学習活動に取り組む。

表現をみんなに見てほしい！

他者との違いを楽しみ、認め合える場にするために、製作した表現を教室に飾る。

６年や保護者からの表現の感想を読み、表現への愛着が高まるようにする。

７･８　伊保小音マップをつくろう！

○　伊保小音マップを作り、クラスで鑑賞する。
　・同じ音でも表現の仕方が違うね。
　・この描き方すてきだね。
○　６年や保護者からの感想や振り返りを読み、これまでの活動を振り返る。
　・友達の表現と合わせてクラスで一つの表現にすることが楽しかった。
　・音を聞いて形や色はどんな感じか想像することが難しかったけれど、友達からのすてきポイントで自信をもてたし、パワーアップポイントを参考にして作ることができてよかった。

６－２音マップを鑑賞し、同じ音でも人によって表現が違うことのよさや面白さに気付く。

育てたい子ども像
・試行錯誤や他者との関わりを通して、自分の表現に自信をもち、表現することを楽しむ子ども